

支 出	内 訳	予 算
会誌印刷費		4,880,000 円
(Elytra, new series)	印刷費@1,500,000×2回	3,000,000
	送料@80,000円×2回	160,000
(和文誌)	印刷費(送料込)@430,000×4回	1,720,000
事務費		700,000
	Elytra, new series編集費	400,000
	和文誌編集費	100,000
	タックシール、振込手数料、消耗品等	150,000
	バックナンバーpdf化費用	50,000
通信費	郵送代、切手代など	30,000
大会・例会助成費		160,000
	大会助成費	100,000
	東京例会会場費@10,000×2	20,000
	大阪例会助成費@10,000×2	20,000
	名古屋例会助成費@10,000×2	20,000
報償費	学会賞および受賞者旅費補助	160,000
予備費		100,000
負担金	分類学会連合分担金	10,000
次年度繰越金		4,400,000
合 計		10,440,000

## 4. 特別会計 2015年度予算

取 入	内 訳	(円)
	前年度繰越金	2,059,447
合計		2,059,447
支 出	内 訳	(円)
	次年度繰越金	2,059,447
合計		2,059,447



坂本洋典・森照貴・小泉逸郎, 2014. 温泉・地熱地帯は生物多様性のホットスポットか? 生物科学, 65(4): 245-255.

本論文は、温泉工学会誌に江本義数が連載した「我が国の温泉中に棲息する生物：その1～8」(1964-1967) および「続・我が国の温泉中に棲息する生物：その1～6」(1968-1969) についてのレビューである。温泉に関わりがある生物を「温泉生物」と定義し、特殊な環境に生息している温泉生物の面白さや今後の課題を整理している。甲虫類はガムシ類など水生甲虫を中心に実に7科28種が記録されているが、江本の原著に当たると古い学名を使用したものが多く、見直しが必要であろう。

私自身、これまでに各所の露天の温泉に入ったが、温泉内に生息する甲虫を採集したのは、北海

道支笏湖畔の丸駒温泉でコモンシジミガムシを採集したたった一度きりである。残念ながら本種は上の総説によると、東北から九州の27温泉から既に記録されており、温泉生物の中では常連なのかも知れない。

幼少時代に穴が空くほど読みふけた「甲虫とつきあう本」(平野幸彦, 1985, 日本交通公社)に甲虫観察のポイントの1つとして「小さな温泉の周辺も好ポイントとなる」とあり、確かに霧積温泉や扉温泉のように有名採集地は温泉の周辺だな、と思っていた。物心がついて温泉の良さも判る歳になってくると、温泉周辺が採集ポイントというのは単に採集後の楽しみに起因する副次的なことなのではないか、と思うようになっていた。

本レビューを見ながら、今後は温泉に浸かる楽しみがもう1つ増えたことに、素直に喜びを覚える。

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)